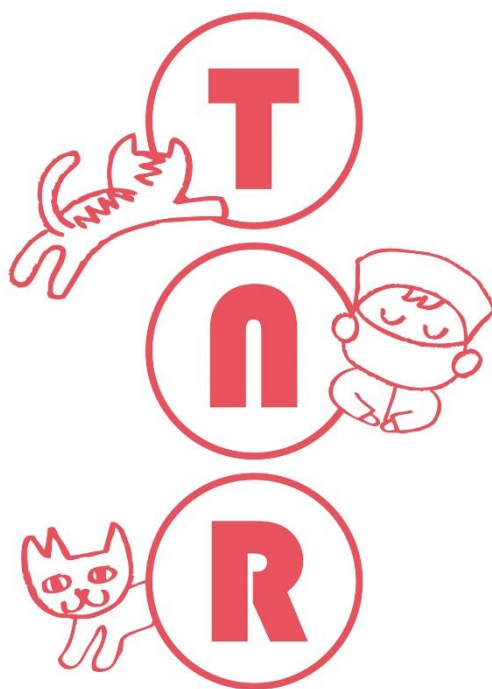


男木島ごとさくらねこTNRプロジェクト 実施報告書



doubutukikin since 1988

主 催：公益財団法人どうぶつ基金
共 催：男木地区コミュニティ協議会
共 催：NPO法人 BONにゃん
期 間：平成27年6月1日～2日（手術日）

香川県の現状

平成26年度環境省調べのデータによると、香川県は年間1,877頭の猫を殺処分しており、殺処分数は、全国ワースト19位に位置する。

自治体名	猫									
	引取り数				処分数					
	飼い主から		所有者不明		返還数	返還数 のうち 幼齢個体	譲渡数	譲渡数 のうち 幼齢個体	殺処分数	殺処分数 のうち 幼齢個体
	成熟個体	幼齢個体	成熟個体	幼齢個体						
香川県 (高松市を除く)	51	0	1,060	288	4	0	124	16	1,269	246
高松市	34	14	280	332	6	0	44	0	608	346
合計	85	14	1,340	620	10	0	168	16	1,877	592

瀬戸内の島、男木島

瀬戸内海にある男木島（香川県高松市男木町）は、高松港から約35分ほど沖合に位置し、周囲4km、人口200人に満たない小さな島です。その大部分が山地であり平地がほとんどありません。そのため民家は島の南部の男木港周辺の斜面に密集して建ち並んでおり、その民家の間をまるで迷路のように細い坂道が入り組むといった独特の景観が特徴的です。また、瀬戸内の島々を会場にして3年に一度開催されている現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」に初回の2010年から参加しており、華やかなアート作品で島が彩られています。現代アートとの融合や新しくもホッとするような懐かしさを感じることができます。

©2013 男木地区コミュニティ協議会 HPより引用



男木島状況（申請時）

男木島は、2013年に動物写真家に紹介されたことをきっかけに、猫島として全国的に有名になり多くの観光客が訪れるようになった。そういった状況下で、香川県で猫のTNRや保護、里親探し活動を行う「NPO法人BONにゃん」に、猫好きの観光客から「男木島の猫の状態が悪い」「飢えていて可哀想」「どうにかならないか」といった問い合わせが多く寄せられるようになった。その反面、島では猫が漁師の網を破る、トウモロコシの芽を齧る、畑で糞尿をする、盛りの声がうるさいといった被害の苦情が男木地区コミュニティ協議会に相次いでいた。

対応に困った男木地区コミュニティ協議会は、視察に来島したNPO法人BONにゃんに相談し、猫の健康状態の改善と全頭（推定200頭）への不妊手術を実施することを決定。どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業、出張手術」に申請を行った。



怪我をしているオス（写真左上）や、栄養状態が悪く弱っている猫が多い。

手術会場・猫保護場

doubutukikin

手術会場には、男木島旧保育園を利用した。手術会場として利用できるようにするために、実施1ヶ月ほど前からBONにゃんとコミュニティ協議会木場会長による大掃除が行われた。会場には、衛生管理のため、ビニールシートを張り巡らせている。



男木島旧保育園（外観）



会場内



手術会場の軒下に捕獲した猫を保管。
夜間は、会場内に入れイノシシ対策とした



会場は急こう配の山の手にあるため、農作業用の小型特殊自動車が猫の運搬に活躍した

捕獲器・ケージ使用台数

所持者	捕獲器	ケージ
どうぶつ基金	200台	10台

Sakura Neko
TNR

スケジュール

doubutukikin

5月30日（月）		6月2日（木）	
17:00	捕獲	09:00	朝礼
5月31日（火）		09:10	手術開始
06:00	捕獲	12:10	昼休憩
13:00	会場設営	13:30	手術再開
17:00	捕獲	15:30	手術終了
6月1日（水）		16:30	撤収完了・終礼
12:40	獣医師団来島	6月3日（金）	
12:50	会場設営	09:00	リリース 会場片づけ 捕獲器洗浄消毒
13:15	朝礼	15:00	離島
13:30	手術開始		
17:30	手術終了		
18:00	撤収完了・終礼		

協働人数

日 程	どうぶつ基金	男木島	BONにゃん	合計
5月30日	0名	1名	10名	11名
5月31日	スタッフ1名	1名	13名	15名
6月1日	スタッフ3名 獣医師6名 ボランティア3名	1名	15名	28名
6月2日	スタッフ3名 獣医師6名 AHT1名	1名	17名	28名
6月3日	0名	2名	13名	15名

TNR

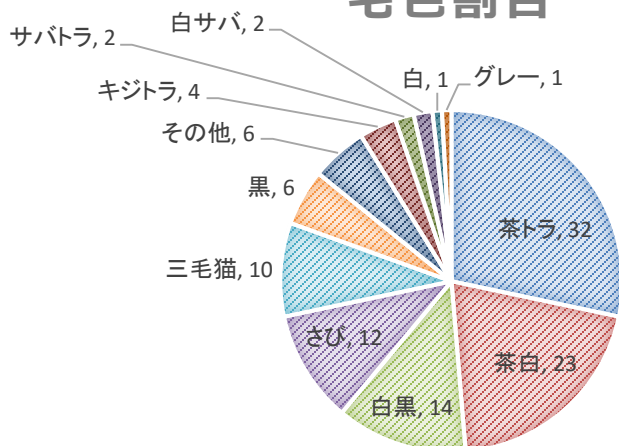
手術数

	オス	メス	耳カットのみ	計
6月1日	16	34	0	50
6月2日	50	16	1	67
計	66	50	1	117

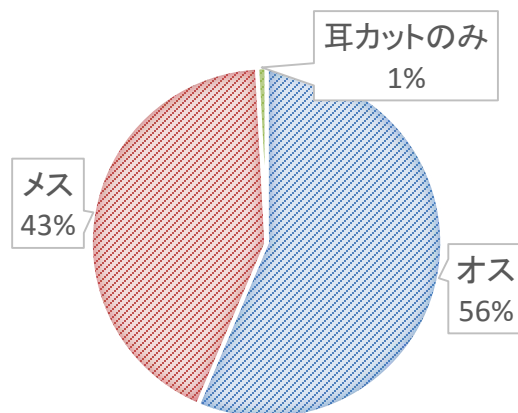
処置内容

不妊去勢手術、ノミ・ダニ・回虫の駆除薬（レボリューション）、ワクチン、点眼、補液50cc

毛色割合



オスメス割合



捕獲して



不妊手術をしてサクラ耳カット



元の場所に戻す

特別処置

不妊去勢手術に運ばれてきた猫が、怪我や病気を持っていた場合は、できる限りの治療を実施す。



胸部、肩怪我（アブセス・デブリーディレグ）皮下膿瘍・3針縫合
外傷が多く、去勢手術に加え上記の治療を受けている猫。

保護

生後間もないために体重が足りず、手術ができなかった子猫が14頭いた。

うち、7頭は島で、手術を受けられる大きさまで見守り、時期が来たら不妊手術を行う。のこりの7頭の子猫と、手術を受けた9頭の若い猫、計16頭は、BONにゃんが引き取り、里親探しを行っている。





●山口獣医師長（執刀医）



●稲葉獣医師（執刀医）



●後藤獣医師（執刀医ボランティア参加）



●原田獣医師（ボランティア参加）



●高尾獣医師（ボランティア参加）



●小松獣医師（ボランティア参加）

当プロジェクトの趣旨に賛同し、4名の獣医師がボランティア参加してくださった。

手術会場の様子

doubutukikin



●手術前に全員で朝礼を行う



●男木地区コミュニティ協議会 木場会長



●NPO法人BONにゃん 長町代表



●手術前にケージに管理タグをつける



●安定剤、麻酔を打っていく



●抗生剤やワクチン、ノミダニ駆除を行う
腕には管理タグがつけられる

Sakura Neko
TNR

手術会場の様子

doubutukikin



● さくら耳カットを行う



● 避妊手術に備えて、お腹の毛刈りをする



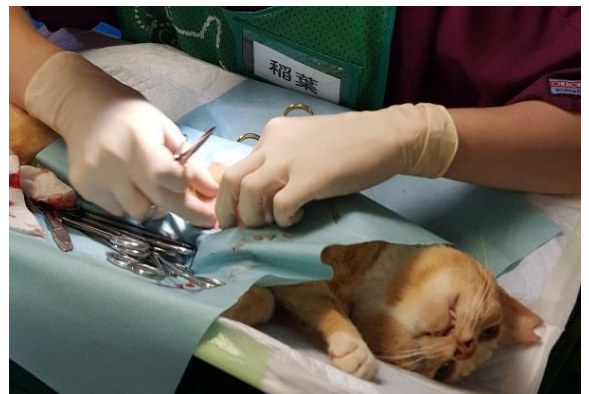
● 不妊去勢手術



● 手術痕は約1cmのエキスパート獣医



● 術後ケアとして、補液や目薬、消毒、
耳掃除をおこなう



● 怪我や病気が見つければできる限りの
治療をおこなう

Sakura Neko
TNR

手術会場の様子

doubutukikin



● 1頭ごとに手術器具を洗浄し消毒する



● 猫が手術を受けている間にケージを洗浄



● 術後の猫は一晩安静にする



● 手術翌日、捕獲場所にリターンする



● 手術ができない子猫はBONにゃんが
保護し里親探しを行う



● 多くのメディアに取り上げられた

Sakura Neko
TNR

●2016年6月4日 読売新聞



人間の都合 胸に刻んで

活動では、妊娠中の猫も対象となった。手術台の上では、大きくなった腹部にメスが入り、捕獲があと少し遅ければ生まれていたかもしれない「命の塊」が取り出されていた。「どこかで線を引かないといけないんですよ……」。言葉

猫の島の幸せ ルール不可欠

男木島 2日で117匹避妊手術

男木島(高松市)で、2日、島に暮らす猫117匹に避妊手術が行われた。捕獲されなかった猫は、今後発見して手術をしていくという。「猫の島」として観光客の人気を集める一方で、島では増えすぎた猫による被害が後を絶たない。住民と猫が幸せに暮らすには、地域ぐるみでの見守り活動やルール作りが欠かせない。

1日午後、島の南台にある保健所倉庫で、公益財団法人「どうぶつ基金」(兵庫県)が派遣した獣医師らによる避妊手術が行われた。されたり、道に使う網を破られたりして猫に不快な思いを入れた猫たちは不安そうに鳴き立てた。安眠剤を打ち込まれると10秒ほどで意識がなくなった。手術を施しながら見つけ、手術を施し、避妊した目的のため耳の先端をV字形にカット、台の上で、内臓より19年度に寄せられた猫は15匹、雄は30匹ほどで手術を終えた。同基金の佐上邦久理事長(68)は「猫は繁や保護依頼以外では、放し飼

ふん尿・餌対策で共生

「(佐上)が上役を始めた。狂犬野放しを止めた。行政が捕獲する野良犬と違い、猫は放置され繁殖しやすい。このため、同課は避妊手術を施して住民らが猫との関係を築く。地域猫活動を推進。高松市を除く市町で、地域猫活動のモデル地域に指定された自治体などに対し、野良猫手術を1匹につき1万円助成している。佐上理事長は「手術すれば終わるじゃない。地域猫活動の裏を住が理解してくれない。猫は新たな猫が来て元の状況に逆戻りだ」と説明する。ふん尿の始末や餌やりというルール作りや、手術していない猫を見つけた際の対処法も周知徹底が、人間と猫との共生につながっていくという。

時間がかかるといえない。避妊の効果で住民の見方も変わり、猫が島内外で愛される機会が増え、1日間にわたる作業を終え、男木地区コミュニティ協議会の木場健一会長(68)は希望を語った。

THE YOMIURI SHIMBUN

読売新聞

2016年(平成28年)
6月4日 土曜日

●2016年6月3日 毎日新聞



新毎日

6月3日(金)
2016年(平成28年)

発行所: 大阪市北区梅田3丁目4番5号
〒530-8251 電話(06)6345-1551
毎日新聞大阪本社

不妊手術で猫と共存目指す



手術を終えた猫を元の場所に返す木場さん(左)と佐上さん(高松市男木町で、公益財団法人「どうぶつ基金」提供)

「猫の島」として知られる男木島(高松市男木町)で、2日、猫の増加を防ぐための不妊手術が1斉にあった。6人の獣医や高松の動物愛護団体メンバーが島に渡り、猫を次々と捕獲して手術していった。また、男木地区コミュニティ協議会は猫をテーマにしたアートプロジェクトを進める。木場健一(68)は「手術は猫人の共生を目指す第一歩」と話した。

【待鳥航志】

200匹以上の猫が住む男木島では、ふん尿や農作物の食い荒らしなどの被害が相次ぎ、島民や観光客から苦情が出ていた。協議会は今年4月、高松市のNPO法人「BON」(代表理事は「どうぶつ基金」)と「公益財団法人「どうぶつ基金」(兵庫県芦屋市)の援助を受け、不妊手術が実現した。獣医やスタッフらは島に泊まり込み、3日までの予定で、全ての猫を対象にした手術を始めた。1日には旧保健所の空き家で、手術を受ける猫が寝かされた。同じ日に手術を繰り返さないよう、手術をした猫は印として左耳にV字の切り込みを入れていく。麻酔をかけるため、痛みは感じないという。手術後の猫は安静な状態で留守られ、元の場所に返された。2日間、計117匹の猫の手術を終えた。

男木島アートプロジェクトも

協議会やどうぶつ基金は、猫をテーマにしたアートプロジェクトも始めた。猫の居場所となる「猫ハウス」や、猫の姿のオブジェを設置するといった。どうぶつ基金の佐邦久・理事長(68)は「200匹の猫が島民と共に暮らす風景そのものがアート作品になる。猫の問題を解決し、世界で一番猫に優しい島にしたい」と願った。

●2016年6月1日 四国新聞

2016年(平成28年)6月1日(水曜日) 社会 (20)

観光客の足元に群がる島の猫—高松市男木町、男木島

男木島の猫200匹 不妊・去勢手術へ

島民「地域で見守り共存」

高松市沖の男木島で増え続ける野良猫の繁殖を抑えようと、島民らが島内にいる猫約200匹の不妊・去勢手術に乗り出す。猫好きの間で「瀬戸内の猫島」として人気の男木島だが、ふん尿の問題や農作物被害が相次ぎ、対策を求める声が上がっていた。1日から獣医師が順次手術を行い、地域ぐるみで人と猫の共生につなげる。

男木地区コミュニティ協議会(木場健一会長)によると、野良猫は15年ほど前から増え始め、今では島の人口約180人を上回るほどに。猫掃き回しで複数の猫がくっつき、袋がインターネット上などへ人気を集める半面、観光客による餌やりなどのマナー違反もあって、ふん尿被害をはじめ、漁網を破られたり、畑を荒らされたりするなどの被害が深刻化。健康状態の悪い猫も少なくなく、島民が対応に苦慮していた。

事態を踏まえ、同協議会は殺処分せずに増加を抑えられる方法をNPO法人BONにやん(高松市)に相談。不妊・去勢手術の実施を決め、殺処分ゼロを目指して全国で無料で行っている公益財団法人「どうぶつ基金」(兵庫県)の協力を得た。今回は1〜3日の日程で手術を実施するほか、ワクチンの接種やノミ、ダニの駆除も行う予定だ。

木場会長は「放置しても増加するばかりで、結果的に不幸な猫を増やしてしまう。今いる猫の命を地域で見守りながら共存していきたい」と説明。今後、島にすむ猫とアートを組み合わせた取り組みも計画したいとしている。

四国新聞

発行所 四国新聞社
〒760-8572
高松市中野町15番1号
© 四国新聞社 2016年

●2016年5月26日 読売新聞

猫の島 困ってしまっ

急増 200匹避妊手術へ

悪臭、農作物被害 漁網破る…

住民180人の島に猫約200匹が暮らす「猫の島」と呼ばれる男木島(高松市)で6月1、2両日、島内のすべての猫に避妊手術が施される。近年の猫ブームに乗って観光客を集める一方、増え続ける猫に農作物が荒らされる被害なども相次いでおり、地域ぐるみで猫を管理する「地域猫」活動で共生を目指すことになった。(岸田恵)

「猫のおかげで観光客はすいぶん増えたんだけど、迷惑を被る島民も増えたんだよ。農業も、猫は古くから文ミなの害獣を駆除するとして堂々観光客向けの調理に追われていた村士又さん(84)が、複雑な表情を見せた。

島民の主な収入源は漁業や、猫は古くから文ミなの害獣を駆除するとして堂々観光客向けの調理に追われていた村士又さん(84)が、複雑な表情を見せた。

同基金は、地域の野良猫に避妊手術を施したうえで、住民に猫の健康を管理してもらう活動を進めており、昨年は竹島(鹿児島県・島村)や静岡県熱海市など全国9か所で実施。今回も獣医師5人を島に派遣して手術にあたるほか、猫の健康診断やノミ、ダニの駆除も行う。費用は基金が負担するとのこと。

地元住民でつくる「男木地区コミュニティ協議会」の木場健一会長は、「猫を増やしたは人間であって、猫が罪はない。猫と人間がうまく共存できよう、島を挙げて取り組みを成功させたい」と語る。

男木島 地域挙げ 共生目指す

「地域猫」活動 野良猫に避妊手術を施した上で、住民らが地域ぐるみで餌やりやふん尿処理などの世話をする取り組み。1980年代から各地に広がり、民間団体の活動費や避妊手術費用を助成する自治体もある。こうした活動を背景に、2014年度に殺処分された猫は全国で9万7454匹で、1974年に統計を取り始めて最低となった。

THE YOMIURI SHIMBUN

読売新聞

2016年(平成28年) 5月26日 木曜日

●2016年5月25日 読売新聞

THE YOMIURI SHIMBUN

2016年(平成28年) 5月25日 水曜日

読売新聞

2016年(平成28年)5月25日(水曜日)

高松男木島 全200匹避妊手術へ

「猫の島」増えすぎた

住民約180人の島に猫約200匹が暮らし、「猫の島」と呼ばれる香川県高松市の男木島(高松市)で6月1、2両日、島内のすべての猫に避妊手術が施される。近年の猫ブームに乗って観光客を集める一方、増え続ける猫に農作物が荒らされる被害なども相次いでおり、地域ぐるみで猫を管理する「地域猫」活動で共生を目指すことになった。(松田 隆)

「猫のおかげで観光客はすいぶん増えたんだけど、迷惑を被る島民も増えたんだよ」。今年2月、経営する島内の食堂で観光客向けの調理に追われていた村上キ子(54)さん。複雑な表情を見せた。

島民の主な収入源は漁業や農業で、猫は古くからネズミなどの害獣を駆除するとして重宝されてきた。ところが数年前、テレビ番組などで島の猫が取り上げられ、以来、観光客が島にきて餌をやるようになった。猫も急増した。今は猫目当ての観光客が多い日で数十人訪れるという。

この間、猫のふれあいによる悪臭の苦情が増えたほか、農作物が荒らされたり、漁師用の網を破られたりする被害も深刻化。島民が今年4月、殺処分ゼロを掲げて「地域猫」活動に取り組み、公益財団法人「どうぶつ基金」(兵庫県芦屋市)に対策を依頼した。

同基金は、地域の野良猫に避妊手術を施したうえで、住民に猫の健康管理を

か農作物が荒らされたり、漁師用の網を破られたりする被害も深刻化。島民が今年4月、殺処分ゼロを掲げて「地域猫」活動に取り組み、公益財団法人「どうぶつ基金」(兵庫県芦屋市)に対策を依頼した。

同基金は、地域の野良猫に避妊手術を施したうえで、住民に猫の健康管理を

農作物荒らす被害相次ぎ…

「共生を目指す」

地元住民でつくる「男木地区コミュニティ協議会」の木嶋健一(会長)は「猫を増やしたいのは人間であって、猫に罪はない。猫と人間が共生できるような島を築いて取り組むことが重要だ」と語る。

「地域猫」活動 野良猫に避妊手術を施した上で、住民らが地域の世話をする取り組み。1990年代から各地に広がり、民間団体の活動費や避妊手術費用を助成する自治体もある。こうした活動を背景に、2014年度に殺処分された猫は全国で7万9454匹、1974年に統計を取り始めて最低となった。

してどう活動を進めており、昨年は竹島(鹿児島県三島村)や静岡県熱海市など全国10か所を実施。今回も獣医師5人を島に派遣して手術にあたり、猫の健康診断やノミ、ダニの駆除も行う。費用は基金が負担する。

「猫はどんなに増えた、今年も猫はこれ以上増えない。0匹と推定されている200匹には2、3年前から猫ON(猫のネットワーク)の仲介で、殺処分を減らす目的で猫の不妊手術に取り組み、公益財団法人どうぶつ基金(兵庫県芦屋市)に協力を依頼。無料手術をする獣医師が6月1日から3日間、島に派遣されることになった。

不妊手術後は、決められた場所で住民が餌を与えるようにする。協議会の木嶋(健一)は「猫を迷惑がれるのではなく、共存する島としたい」と話している。

漁港に集まった猫—高松市の男木島

●2016年5月25日 朝日新聞

島の猫 200匹不妊手術へ

人口180人の男木島

瀬戸内海にはたくさんの猫が暮らす「猫島」が点在する。そのうちのひとつ、男木島(高松市)で6月、島のすべての猫に不妊手術をすることになった。増え続ける猫への苦情が住民から相次いだため、頭数を抑え、住民との共存をめざす。

男木島の人口は約180人。猫はこれ以上増えない。今年春、捨て猫の里親探しをして、高松市のNPO「BON」やNPOの仲介で、殺処分を減らす目的で猫の不妊手術に取り組み、公益財団法人どうぶつ基金(兵庫県芦屋市)に協力を依頼。無料手術をする獣医師が6月1日から3日間、島に派遣されることになった。

不妊手術後は、決められた場所で住民が餌を与えるようにする。協議会の木嶋(健一)は「猫を迷惑がれるのではなく、共存する島としたい」と話している。

漁港に集まった猫—高松市の男木島

観光客・苦情ともに増え ■「頭数抑え共存を」

2016年(平成28年) 5月25日 水曜日

朝日新聞

経済7・9面
国際10・13面
金融情報16・17面
スポーツ18・19・20面
読者投稿22面/エコ25面
「新聞と9条」25面
地域26・27面/生活28・29面
文化文芸30面/小説30面
TVラジオ22・23・36面

朝日新聞大阪本社
〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18
TEL 06-6233-9131 www.asahi.com

●2016年5月18日 毎日新聞



●2016年5月18日 Yahooニュース/毎日新聞

headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20160517-000000008-mai-soci

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン

キーワードを入力 ニュース 検索

トップ 速報 写真 映像 雑誌 個人 ビジネス 特集

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT・科学 ライフ 地域

<猫の島> 200匹不妊手術へ 香川・男木島、増えすぎで

毎日新聞 5月17日(火)7時0分配信

Twitter Facebook

 “猫の島”として有名になった香川県の男木（おぎ）島で、野良猫が増えすぎたため、全ての猫に不妊手術をすることになった。瀬戸内海に浮かぶ島に住む猫の総数は、人口約180人を上回る200匹以上。ふん尿や農作物の食い荒らし、漁網を破るといった被害が続き、島民や観光客から苦情が相次いでいる。地元の男木地区コミュニティ協議会が理事会で手術を決め、6月から高松市の動物愛護団体が取りかかる。

観光客の人気になっている男木島の猫。2015年8月1日午後1時1分、玉木達也撮影

協議会によると、猫は十数年前から徐々に増え、インターネットを通じて知られるようになった。約3年前に著名な写真家が著書で紹介してからは、猫目当てで島を訪れる人も増えた。観光客らが餌をやることで繁殖がさらに進み、被害が増え始めた。やせ細り、病気の猫も目立つという。

協議会は今年4月、高松市のNPO法人「BONにゃん」（長町満里子代表）に相談。猫の増加を防ぐため、理事会の全員一致で不妊手術の受け入れを決めた。猫の不妊手術を担う公益財団法人「どうぶつ基金」（兵庫県芦屋市）が資金を援助。3人の獣医が6月1日から島を訪れ、ノミ・ダニの駆除や健康診断も行う。

協議会の木場健一会長（68）は「猫に罪はなく、増やした人間に責任がある。これ以上増やせないが、今いる猫の命と健康を守りたい」と話している。【伊藤 暉]

● 2016年6月4日 ヨミウリオンライン



「猫の島」で117匹に避妊手術…妊娠中も対象

2016年06月04日 08時10分



避妊手術を受ける島の猫たち(高松市の男木島で)

男木島(高松市)で1、2両日、島に暮らす猫117匹に避妊手術が行われた。

捕獲しきれなかった猫は、今後発見して手術をしていくという。「猫の島」として観光客の人気を集める一方で、島では増えすぎた猫による被害が後を絶たない。住民と猫が幸せに暮らしていくには、地域ぐるみでの見守り活動やルール作りが欠かせない。

1日午後、島内の高台にある保育園跡で、公益財団法人「どうぶつ基金」(兵庫県芦屋市)が派遣した獣医師らによる避妊手術が行われた。捕獲され、1匹ずつケージに入れられた猫たちは不安そうに鳴き続けたが、安定剤を打ち込まれると10秒ほどでおとなしくなった。

並べた猫に麻酔を注射し、避妊した目印のため耳の先端をV字形にカット。台の上で、雌は5〜15分、雄は30秒ほどで手術を終えた。同基金の佐上邦久理事長(56)は「猫は繁殖力が強い。止めるなら、集中的な手術が必要になる」と力を込めた。

島では、猫に農作物を荒らされたり、漁に使う網を破られたりして猫に不快感を持つ人が増えた。まだ発見されていない猫が約80匹いると見込まれ、住民らが同基金と協力しながら見つけ、手術を施していく。

県生活衛生課によると、県内で2015年度に寄せられた猫に関する苦情は1622件。餌、主不明の問い合わせや保護依頼以外では、「放し飼」(111件)「ふん尿被害」(76件)が上位を占めた。

狂犬病予防法などを根拠に行政が捕獲する野良犬と違い、猫は放置され繁殖しやすい。このため、同課は避妊手術を施して住民らが餌などの面倒を見る「地域猫」活動を推進。高松市を除く市町で、地域猫活動のモデル地域に指定された自治会などに対し、野良猫の手術代を1匹につき1万円助成している。

佐上理事長は「手術をすれば終わりじゃない。地域猫活動の意義を住民が理解してくれないければ、新たな猫が来て元の状態に逆戻りだ」と説明する。ふん尿の始末や餌やりといったルール作りや、手術していない猫を見つけた際の対処法の周知徹底が、人間と猫との共生につながるしていくという。

「時間(は)かかるかもしれないが、避妊の効果で住民の見方も変わり、猫が島内外で愛される島になれば」。2日間にわたる作業を終え、男木地区コミュニティ協議会の木場健一会長(68)は希望を語った。

◆人間の都合 胸に刻んで

活動では、妊娠中の猫も対象となった。手術台の上では、大きくなった腹部にメスが入り、捕獲があと少し遅ければ生まれていたかもしれない「命の塊」が取り出されていった。

「どこかで線を引かないといけない……」。言葉を失った私の横で、手術を手伝っていた同基金の女性スタッフが「苦しそうにつぶやいた」。観光客らの無責任な餌やりや曖昧な管理状態が続いた結果、大規模な捕獲や避妊手術につながった。

「猫ブーム」「ネコミクス」といった社会現象の裏には、人間の都合によって失われる命がある。そのことは、ずっと胸に刻んでいたい。(岸田藍)

2016年06月04日 08時10分 Copyright © The Yomiuri Shimbus

● 2016年6月3日 毎日新聞オンライン



[PR] «箕面市»毎月の光熱費をWEBで確認/マイズ版カス

男木島

不妊手術で猫と共存目指す アートプロジェクトも /香川

毎日新聞 2016年6月3日 地方版

動物 > 香川県 > ライフ >



手術を終えた猫を元の場所に返す木場さん(左)と佐上さん=高松市男木島で、公益財団法人「どうぶつ基金」提供

“猫の島”として知られる男木島(高松市男木町)で1、2日、猫の増加を防ぐための不妊手術が一斉にあった。6人の獣医や高松市の動物愛護団体メンバーらが島に渡り、猫を次々と捕獲して手術していった。また、男木地区コミュニティ協議会は猫をテーマにしたアートプロジェクトを進める。木場健一会長(68)は「手術は猫と人の共生を目指す第一歩」と話した。【待鳥航志】

200匹以上の猫が住む男木島では、ふん尿や農作物の食い荒らしなどの被害が相次ぎ、島民や観光客から苦情が出ていた。協議会は今年4月、高松市のNPO法人「BONにゃん」(長町満里子代表)に相談し、公益財団法人「どうぶつ基金」(兵庫県芦屋市)の援助を受けて不妊手術が実現した。

獣医やスタッフらは島に泊まり込み、3日までの予定で、全ての猫を対象にした手術を始めた。1日には旧保育所の空き家で、手術を受ける猫が寝かされた。同じ猫に手術を繰り返さないよう、手術をした猫には印として右耳にV字の切り込みを入れていく。麻酔をしているため、痛みは感じないという。手術後の猫は安静な状態で見守られ、元の場所に

戻された。

2日間で計117匹の猫の手術を終えた。3日は手術をせず、捕獲できなかった猫については今後も継続して捕獲、手術をしていくという。一連の様子を見守っていた木場さんは「猫の増加が被害につながり、猫を嫌う島民も出てくる。でもこの島で猫と人は切っても切れない。手術を機に、島民も猫も観光客もみんなが幸せになることができればうれしい」と話した。

協議会やどうぶつ基金は、猫をテーマにしたアートプロジェクトも始めた。猫の居場所となる「猫ハウス」や、招き猫のオブジェも設置するという。どうぶつ基金の佐上邦久・理事長(56)は「200匹の猫が島民と共に暮らす風景そのものがアート作品になる。猫の問題を解決し、世界で一番、猫に優しい島にしたい」と願った。

●2016年5月25日 ヨミウリオンライン

www.yomiuri.co.jp/osaka/news/20160525-OYO1T50018.html

YOMIURI ONLINE

ホーム ニュース 深読み 発言小町 医療 読売新聞から

トップ ニュース 企画・連載 近畿地方の天気 読売新聞大阪本社から

関西発 ニュース 文字サイズ 小 中 大

猫の島増えすぎ、全200匹避妊手術へ…男木島

2016年05月25日

Twitter おすすめ G+



住民約180人の島に猫約200匹が暮らし、「猫の島」と呼ばれる瀬戸内海の男木島(高松市)で6月1、2両日、島内のすべての猫に避妊手術が施される。近年の猫ブームに乗って観光客を集める一方、増え続ける猫に農作物が荒らされる被害なども目立っており、地域ぐるみで猫を管理する「地域猫」活動で共生を目指すことになった。(岸田藍)

「猫のおかげで観光客はすいぶん増えたんだけど、迷惑を被る島民も増えたんよ」。今月21日、経営する島内の食堂で観光客向けの調理に追われていた村上キヌ子さん(84)が、複雑な表情を見せた。

島民の主な収入源は漁業や農業で、猫は古くからネズミなどの害獣を駆除するとして重宝されてきた。

ところが数年前、テレビ番組などで島の猫が取り上げられて以来、観光客が島に来て餌を与えるようになり、猫も急増した。今は猫目当ての観光客が多い日で数十人訪れるという。

この間、猫のふん尿による悪臭の苦情が増えたほか、農作物が荒らされたり、漁師用の網を破られたりする被害も深刻化。島民が今年4月、殺処分ゼロを掲げて「地域猫」活動に取り組む公益財団法人「どうぶつ基金」(兵庫県芦屋市)に対策を依頼した。

同基金は、地域の野良猫に避妊手術を施したうえで、住民に猫の健康管理してもらい活動を進めており、昨年は竹島(鹿児島県三島村)や静岡県熱海市など全国9か所で実施。今回は獣医師5人を島に派遣して手術にあたるほか、猫の健康診断やノミ、ダニの駆除も行う。費用は基金が負担するという。

「共生を目指す」

地元住民でつくる「男木地区コミュニティ協議会」の木場健一会長は、「猫を増やしたの(は人間であって、猫に罪はない)。猫と人間がうまく共存できるよう、島を挙げて取り組みを成功させたい」と語る。

2016年05月25日 Copyright © The Yomiuri Shimbun

●2016年5月24日 朝日新聞デジタル

www.asahi.com/articles/ASJ5K66FHJ5KPLXB00Y.html

朝日新聞 DIGITAL

検索 目次

トップニュース スポーツ カルチャー 特集・連載 オピニオン

新着 社会 政治 経済・マネー 国際 テック&サイエンス 環境・エネルギー 地域 朝デジスペシャル

朝日新聞デジタル 記事 社会 その他・話題 どうぶつ新聞 香川

瀬戸内海「猫島」、全200匹に不妊手術へ 人口上回る

細川治子 2016年5月24日 11時40分

シェア ツイート ブックマーク メール 印刷



瀬戸内海にはたくさんの猫がすむ「猫島」が点在する。そのうちのひとつ、男木(おぎ)島(高松市)で6月、島のすべての猫に不妊手術をすることになった。増えた猫への苦情が住民から相次いだため、頭数を抑え、住民との共存をめざす。

ネコ好きのあなたへ →

猫の写真いっぱい、ギャラリーはこちら →

男木島の人口は約180人。猫はこれを上回る200匹と推定されている。

島には2、3年前から猫目当ての観光客が目立つようになった。動物写真家の紀行番組や本に登場したのがきっかけという。同以前、島の男木地区コミュニティ協議会に「猫を何とかしてほしい」との苦情も寄せられるようになった。畑の作物をかじったり、漁網を食いちぎったりする被害も報告されている。

協議会は保健所と協力して島のあちこちに猫への餌やり禁止を呼びかける貼り紙を出したが効果は薄く、猫はどんどん増えた。今年春、殺処分を減らす目的で猫の不妊手術に取り組む公益財団法人どうぶつ基金(兵庫県芦屋市)に協力を依頼。無料手術をする獣医師が6月1日から3日間、島に派遣されることになった。

不妊手術後は、決められた場所で住民が餌を与えるようにする。協議会の木場健一会長(68)は「猫を迷惑がるのではなく共存する島としてPRしたい」と話している。(細川治子)



【TV報道】

- KTS瀬戸内海放送
- RSK山陽放送
- RNC西日本放送
- NHK高松放送局
- OHK岡山放送

男木島ごとさくらねこTNRプロジェクト第1回目の出張手術は、男木地区コミュニティ協議会木場会長と、NPO法人BONにゃん、ボランティア参加してくださった獣医師やAHT方々の尽力により、無事終了した。今回、手術ができなかった子猫や、捕獲漏れの猫は、どうぶつ基金と、男木島、BONにゃんの協働の元、全頭をさくらねこにするまでTNRを継続していく。

また、現代アートと猫を目当てに国内外から訪れる多くの観光客に、

“さくらねこ”は、“不妊手術済み”であること、“さくらねこ”は、“愛されている猫”であること、“男木島”は、“世界一ねこにも人にもやさしい島”になろうとしていること

を、広く広報していく必要がある。そこで、「男木島+さくらねこ+アート=世界一ねこにやさしい島」と題した活動も展開していく予定である。





公益財団法人だうぶつ基金
男木地区コミュニティ協議会
NPO法人 BONにゃん